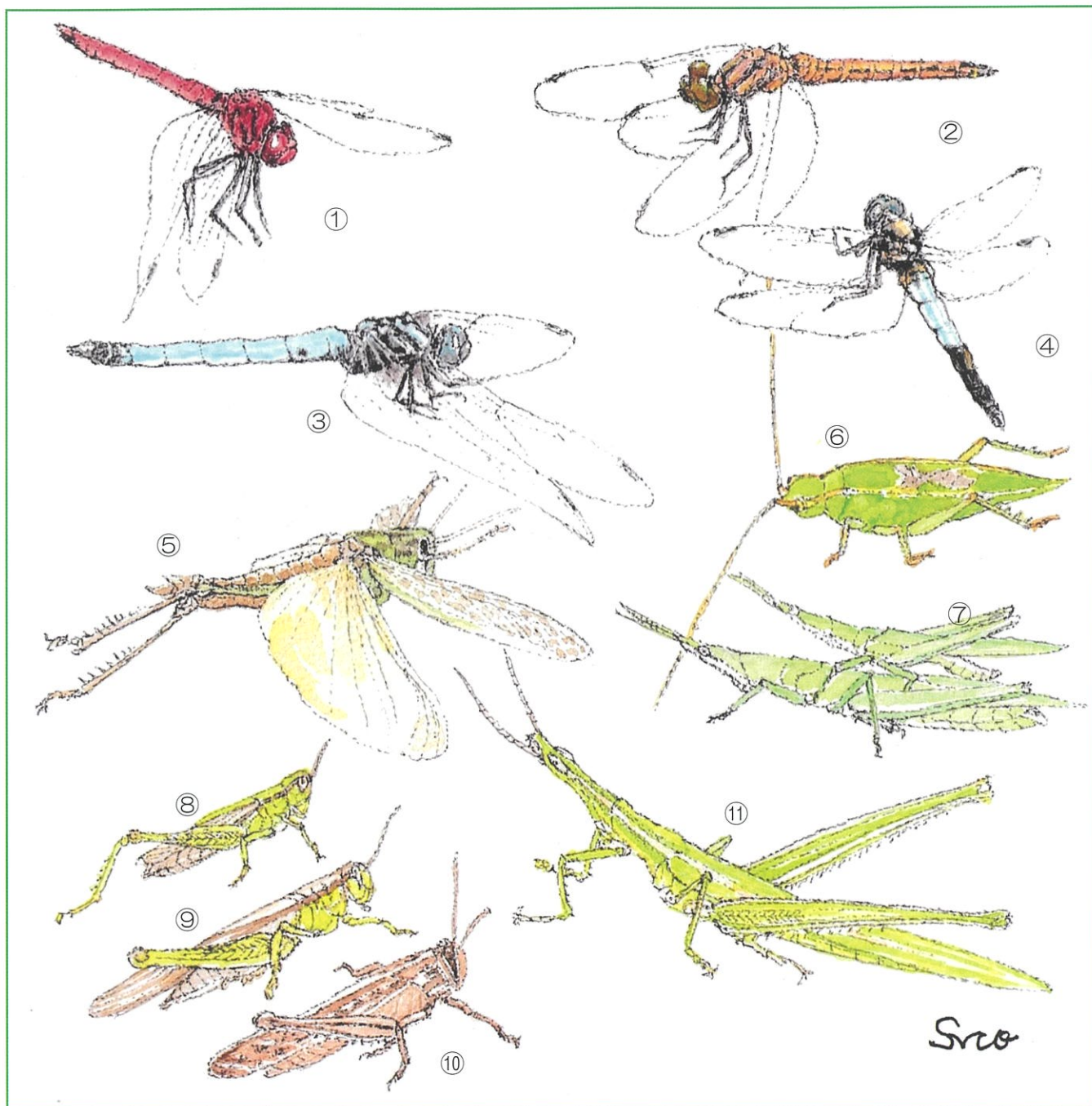


ほたるの里だより

八千代市ほたるの里づくり実行委員会 第78号 2025年10月



ほたるの里の生き物（秋）



- ① ナツアカネ ② アキアカネ ③ オオシオカラトンボ ④ シオカラトンボ
⑤ トノサマバッタ ⑥ アオマツムシ ⑦ オンブバッタ ⑧ コバネイナゴ ⑨ ハネナガイナゴ
⑩ ツチイナゴ ⑪ ショウリョウバッタ

※この里だよりは 令和7年度 ちば環境再生基金助成金（県民の活動）を頂き作成しました。

おやこ生き物探検隊（夏の夜）報告

日時：2025年7月19日（土）18:30～20:30

場所：ほたるの里

参加者：25人（10家族）

ホタルメイト 塚本 聖子

集合した道の駅で、講師の山崎先生から、ホタルや夜に見られる昆虫などについてのクイズ形式のお話がありました。よく知っている子もいてびっくりしました。その後2つのグループごとにほたるの里に向けて出発。夜になると変化する植物の話などを聞きながら…でも虫の好きな子たちはカナブンに夢中。次第に薄暗くなる中、里に到着です。里に着く直前の場所でカラスウリの花を観察。夜の7時頃から咲くそうで、タイミングぴったり。レースのように細かく広がる白い花に見とれてしまいました。

まずはグループごとに昆虫探し。懐中電灯の光で木の幹にいるクワガタやカミキリムシを見つけました。しばらく探検したところで、集合。山崎先生が2日前に仕掛けておいたペットボトルの仕掛けの登場です。ペットボトルを逆さにすると、トレイには、ドサ〜っと出てきた黒い昆虫の山、3杯！びっくりとうれしさに歓声が上がりました。

たくさんのカナブンに交じってクワガタやカブトムシも入っていました。虫たちもびっくりしたようで、右往左往しているうちに参加者の上着やズボンにしがみつくと着く子（昆虫）もいて、悲鳴が上がりました。中には虫に触るのは苦手な参加者もいたようです。

里を出る時間になり、里の入り口のイチョウの木で羽化し始めたアブラゼミを観察していると、「ホタルが見える！」との声がしました。みんなで湿地の草むら辺りを見つめると、確かにホタルの小さな光がいくつも点滅していました。3匹確認しました。

里を出る時、さっき頭を下にしていたアブラゼミは、頭が上になるように向きを変えて羽化を進めている姿も見られ、とても満足した気持ちで帰路につきました。たくさんの生き物が観察でき、貴重な経験ができた観察会でした。

おやこ生き物探検隊（秋）報告

日時：2025年9月13日（土）10:00～11:30

場所：ほたるの里 参加者：18人（4家族+ホタルメイト）

ホタルメイト 大川 義人

時折晴れ間がのぞく中、探検隊参加者と里の整備に参加したメンバーで探検しました。

はじめに講師から秋の虫についてのお話を聞き、子どもたちはソワソワしながら虫取り網と虫かごを持って、いざ探検です。草むらを探す子、樹の周りや根元を探す子、池の中ですくう子、それぞれが自分のペースで探し、虫かごがいっぱいになりました。そして、みんなが発見した生き物の紹介です。

山崎講師から、「トンボは何種類見つけました？」と聞かれ、シオカラトンボ、アキアカネ、ナツアカネが見つかりました。「カエルは見つかりましたか？」と続き、ダルマガエル、ヌマガエル、そしてアマガエルについてのお話があり、今年から東日本産が新種として「ヒガシニホンアマガエル」となったそうです。みんなは「へー」と驚いていました。

また、バッタもイナゴ、トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、エンマコウロギなどがみつき、バッタとキリギリスの違いについてのお話を聞きました。家族の方から「イナゴを食べたことがあります？」という質問もありましたが、ツチイナゴはあまりおいしくないそうです。

セミの抜け殻から、どのセミの種類かを当てるクイズや、冬を越す生き物についても学びました。そのほかにも、シマヘビや蝶、亀の甲羅が見つかり、アライグマが捕食した痕跡があることがわかりました。

最後に森講師から、「植物も生き物なんですよ。秋は実のなるものがたくさんありますね」と言われ、一同は『あっ』と驚き、大人も子どもも新しい発見の連続でした。

生き物探検隊の活動は、みんなにとって楽しい学びの時間となりました。

里では、よくアマガエルに出会えます。緑色をしていることが多いのですが、場所や季節によっていろいろな色や模様のもが見られます。卵やオタマジャクシは確認できてはいませんが、きっと里の湿地で生まれ育っていると考えられます。

里の春の総会の後で「里の生き物」のお話しをしましたが、その時はニホンアマガエルと紹介しました。ところが、ちょうどその頃、学会ではこのアマガエルはヒガシニホンアマガエルという新種であると決定されました。

新たな類が見つかったというよりも、以前からニホンアマガエルは2種に分けられるのではないかとわれていて、この春、遺伝的解析や形態的研究により2種に分けられると決定されたものです。

2種の分布の境界線は、およそ大阪府北部および和歌山県北部あたりです。北海道を含む広い分布域をもったニホンアマガエルをそのままの名前にして、西に分布するカエルをニシニホンアマガエルとしなかったのはなぜでしょうか。

生物の名前を決めるときには、その名前を決める基準となるタイプ標本というものがあります。

ニホンアマガエルのタイプ標本は大英博物館にあります。

これは、江戸時代に来日し、日本の多くの動植物を採集したシーボルトにより持ち帰られたものです。

その標本を調べると、西に分布するアマガエルであり、こちらが真のニホンアマガエルとなります。

よく似た形態をしていますが、大きな特徴はヒガシニホンアマガエルの太腿にはニホンアマガエルにはない模様が見られます。

世界共通の名前である学名は、ニホンアマガエルが *Dryophytes japonicus* に対して、ヒガシニホンアマガエルは *Dryophytes leopardus* であり、*leopardus* はラテン語でヒョウを意味し、太腿の模様を指しています。

(写真提供：山崎保正氏)



令和7年ホタル調査から

ホタルメイト 深澤 一郎

令和7年のホタル飛翔調査の結果は6月28日に最初の1匹が見られ、7月4日に4匹の最大値が確認されました。3年連続の自生が確認されたことになり、目標の1つが達成されつつあります。

調査は、当番表を組み1人で行っています。ホタルが草の陰にいる場合は見落としにもなり複数人による調査が望ましいのですが、要員が少なくまた長期にわたるので困難な状況です。

来年は工夫して対応したいと思います。

	平成 28年	” 29年	” 30年	令和 1年	” 2年	” 3年	” 4年	” 5年	” 6年	” 7年
幼虫 放流数	118	155	305	50	0	0	265	0	0	0
ホタル 出現数	7	8	11	9	3	0	10	6	8	4



（7月）切った枝はバイオネットへ



（8月）ウマノスズクサの保護



（9月）枯れ草集めとかい掘り準備



残土の積み込み作業

里からのお知らせ・・・

◆おやこ生きもの探検隊参加者募集

①トンボ池の中をみてみよう！

ほたるの里では1年に一回トンボ池のお掃除をします。トンボ池の中の生きものを見てみましょう。

日 時：11月8日(土) 11時～12時 場所：ほたるの里。参加費：1人200円

対 象：小学生以上の親子 募集人数：20名（10組程） 先着順

申し込み：八千代市公式ホームページやイベント情報メールをご確認ください。

②里の冬いきもの探検 開催予定

寒い冬、冬眠中の虫やカエルの卵などほたるの里の生きもの探検を、2026年2月14日に予定しています。詳細は1月に八千代市HP等でお知らせします。

◆里山楽習会を9月14日に八千代市市民会館で開催しました。

講師の山崎氏による「ほたるの里」の生き物についての説明がありました。続いて、市内里山団体（4団体）とほたるの里づくり実行委員会から、活動状況についての報告がありました。参加者からは「市内の谷津・里山の状況やほたるの里の生き物について、理解を深めることができた」との声をいただきました。

〔編集後記〕

酷暑の夏から10月に入っても、気温の高い日が続いています。ほたるの里では、ギンナンの実が落ち、アケビの実が膨らみ始めて秋が進んでいます。里から見る秋の空も、すっきりとして素敵な眺めです。これから木々の葉も色づき、北風が吹くころには、富士山も見る事が出来、楽しみもふえます。

ほたるの里に来てみませんか？（広報部）

〔ほたるの里 連絡先〕

八千代市ほたるの里づくり実行委員会事務局

〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5

八千代市 環境政策課 ゼロカーボンシティ推進室内

Tel：047-421-6767

E-mail：kankyou1@city.yachiyo.chiba.jp

HP：<https://www.city.yachiyo.lg.jp/soshiki/40/3728.html>

【編集】広報部会・事務局